

# 【効果的なオンライン授業のポイント】

オンライン授業では、対面リアル授業とは異なる注意点があります。

「既にオンライン授業を行っているが、なかなかうまくいかない」「まだオンライン授業をおこなっていないので、上手くできるか不安」

どちらでも、この「効果的なオンライン授業のポイント」を読み込めば、うまくいきます。

## (1) 授業開始前に取り組みたいこと

事前準備を入念に行うことによって、授業当日のリスク回避や内容の充実化を図ることができます。

### 1. 事前の接続確認

はじめてオンラインで授業を行う際には、事前に接続確認を行うことが望ましいです。WiFi環境の確認、入室までのやり方、使用するツールの使い方まで一人ひとりが確実にできるようにしておけるようにリハーサルを行っておくと良いでしょう。

### 2. 授業にのぞむ上での注意点の共有

対面式と異なる注意点がありますので、事前に共有する内容をまとめて配布しておく等告知しておくが良いです。

#### ① イヤホンの使用について

受講生の集中力を上げる、ハウリングを防ぐ等の上で、推奨するのも良いです

#### ② マイクは基本ミュート・話しはじめる時はミュート解除

余計な音声が入らないようにするために行います。

#### ③ リアクションの一斉練習

うなずき、OK、NG、賛成、反対等。反応が届きづらいので、一斉に練習しておく効果的

#### ④ アドレス、URLリンク、パスワード等入室に関わる情報は受講者意外に公開しない

#### ⑤ 不慮の事態(接続ができない等)に備えて、一斉連絡する手段を確保しておく

⑥ **カメラ OFF は可能か否かの決定**

→OFF にすると表情が見えず、反応がつかみづらい。

⑦ **参加者名の表記**

画面に表記される参加者名は[高橋 太郎(たかはし たろう)]という形でフルネームで表記する。顔を分かっている場合、もし離席したり下を向いている時、誰かわからなくなったりしないようにするため。

⑧ **先生側のカメラ設定**

移り方が小さすぎないか、大きすぎないか、画面が切れていないか。

⑨ **背景**

汚い、生活感が見える等に注意。背景画像もうまく活用していく。

⑩ **手元資料を映せるような設定**

手元にある教材や資料等を画面に映す時、簡単に手軽に映せる方法として「EposCam」というアプリがあります。スマートフォンを Web カメラとして活用し、PC に接続することができます。

## (2) 授業進行で注意したい点

対面リアル授業とオンライン授業では、進行上気をつける点についても相違があります。オンライン授業独特の気をつける点について見てみましょう。

① **授業の開始と終了をはっきりとさせる**

受講生は入室直後ミュートにしている場合が多いので、開始挨拶のサインを決めておくこと  
良い(先生が「今からはじめます」と言ったら、Oを手で作る等)

② **Key ボードや操作パネルの使い方を説明する時は、わかりやすく丁寧に。**

指さし説明ができないため、「画面下、左から二番目の「画面の共有」をクリックして下さい」というように詳細に。

③ **体験操作の時間**

オンライン授業がはじめての時、慣れていない人が多い時は、体験操作の時間を少し設けて、主要な操作を行ってもらう

#### ④ 沈黙に対する恐怖を恐れない

**参加者の反応を感じづらい所**が、対面リアル授業との大きな違い。

反応が見えづらいと恐怖を感じ焦ってしまうかもしれないが、焦らず話していく。ついつい焦いや自分ペースになってしまい、早口にならないように注意

#### ⑤ 大き目のジェスチャー、表情、声の変化(大小、抑揚、スピード)を意識する

リアル対面授業に比べて、オンラインだと「目に見えるもの、耳から聞こえるもの」を強調していかないと、定着しづらくインパクトも弱くなっていきます。

少しおおげさに表現していきましょう。

#### ⑥ 休憩時間は短い間隔で

対面リアル授業よりも、画面に向かっていると疲労が蓄積しやすい。また、受講生の緊張感が持続しづらいという課題もあります。**1コマの時間設定を短くしたり小まめな休憩を入れていくと効果的。**

休憩の取り方も工夫していきたい。30分ごとに立ち上がってストレッチする、90分たったら画面から離れて休憩する、等。

#### ⑦ カメラに語る

資料ばかりに目を向けている。黒板にばかり目を向けている、ということにならないように、カメラ視線を意識していくことが必要

#### ⑧ 先生が長くしゃべり続けない

⑥でも記載のあるように、画面に向かっていると、対面で話を聞いているよりも集中力が持続しづらいです。

先生が長く話し続けるのではなく、10分に1回程度は最低でも発問したり作業してもらいたいと、受講生の主体的な動きを起こしていくことが大事。

#### ⑨ 視覚情報、主体的な活動体験

「飽きさせない」はオンライン授業では大きなテーマです。リアル対面授業よりも気持ちがそぞろになりやすいので工夫が必要です。

特に、「視覚情報…映像や図解等」「主体的な活動体験…作業してもらう、話し合い等」を積極的に取り入れていき集中力を切らさないようにすることです。

### **(3) 活用したい機能[ZOOM]**

オンライン授業で特に良く使われる「ZOOM」の機能の中で、特に活用していきたい機能を取り上げていきます。

#### **① スレイクアウトセッション**

**話しあい学習を行うなら、この機能**を活用できます。参加メンバーを複数のグループに分けて、話し合いを行うことができます。

「タイマー機能」もあるので、参加者にカウントダウンタイマーを表示することができます。また、ホストもグループに入ることができ、部屋の移動もできるので、先生も話し合いの状況を確認することができます。

#### **② チャット機能**

先生と生徒との間で双方向のやりとりができるので便利です。生徒に対して活動指示を出したり、生徒からの質問を受けたい等活用することができます。

注意点として、生徒同士のチャット活用です。生徒同士での活用をOKにしていると、授業とは関係のない事でのやりとりがされてしまう可能性があります。事前設定で参加者同士のチャット活用はできないようにすることができます。

#### **③ 投票機能(有料機能でのみ活用可)**

ZOOM 内でアンケートを取ることができます。授業への満足度や、生徒へ聞きたいことを手軽に聞くことができる機能です。

質問の回答が選択式になっており、操作も簡単にできます。